

ZENRIN

証券コード：9474

2020年3月期 第2四半期決算説明会

2019年11月13日

株式会社 ゼンリン
Maps to the Future

代表取締役社長
代表取締役副社長
執行役員コーポレート本部長

高山 善司
網田 純也
戸島 由美子

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

1. 2020年3月期 第2四半期決算概要
2. 2020年3月期 通期業績予想
3. 事業概況
4. Appendix

注)本資料には、本資料作成日時時点で入手可能な将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済の動向・市場需要・競合状況・為替の変動等にかかわる様々なリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性がありますことをご承知おきください。
尚、本資料掲載情報は、表示単位未満の端数切捨て、増減率の小数点以下第2位四捨五入し小数点第1位まで記載しております。
また、増減率が1000%を超える場合、及び一方若しくは両方がマイナスとなる場合は「－」表記しております。

1. 2020年3月期 第2四半期決算概要

- 1) 決算概要
- 2) 売上高・利益の推移
- 3) 営業利益増減要因
- 4) 中長期経営計画(ZGP25)で区分した事業別売上高
- 5) キャッシュ・フロー推移

目次 2020年3月期 第2四半期 決算概要

1-1) 決算概要

2020年3月期 第2四半期決算のポイント

前年同期比＜減収減益＞

■マーケティングソリューション事業の減収、オートモーティブ事業の前期発生した受託データ販売の反動減等により、売上高、利益共に減少

業績予想比＜減収減益＞

■マーケティングソリューション事業の減収、オートモーティブ事業のナビ関連受託開発が一部後ろ倒しに

(金額単位:百万円)

	2019年3月期 Q2実績	2020年3月期 Q2業績予想 (4/26)	2020年3月期 Q2修正予想 (10/25)	2020年3月期 Q2実績 (10/29)	前年同期比	増減率 (%)	業績予想比 (4/26)	乖離率 (%)	修正予想比 (10/25)	乖離率 (%)
売上高	28,168	27,800	26,800	26,803	△1,364	△4.8	△996	△3.6	3	0.0
営業費用	27,429	27,800	27,130	27,137	△291	△1.1	△662	△2.4	7	0.0
営業利益	738	0	△330	△334	△1,073	—	△334	—	△4	—
営業利益率	2.6%	—	△1.2%	△1.2%	△3.8pt	—	△1.2pt	—	△0.0pt	—
経常利益	977	0	△60	△65	△1,043	—	△65	—	△5	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	587	0	△220	△224	△811	—	△224	—	△4	—

※10/25公表の業績予想の修正値から大きな変更はございません。

当第2四半期の売上高は、
前年同期比 1 3 億円減少の、2 6 8 億円となり、
5 期ぶりの減収となりました。

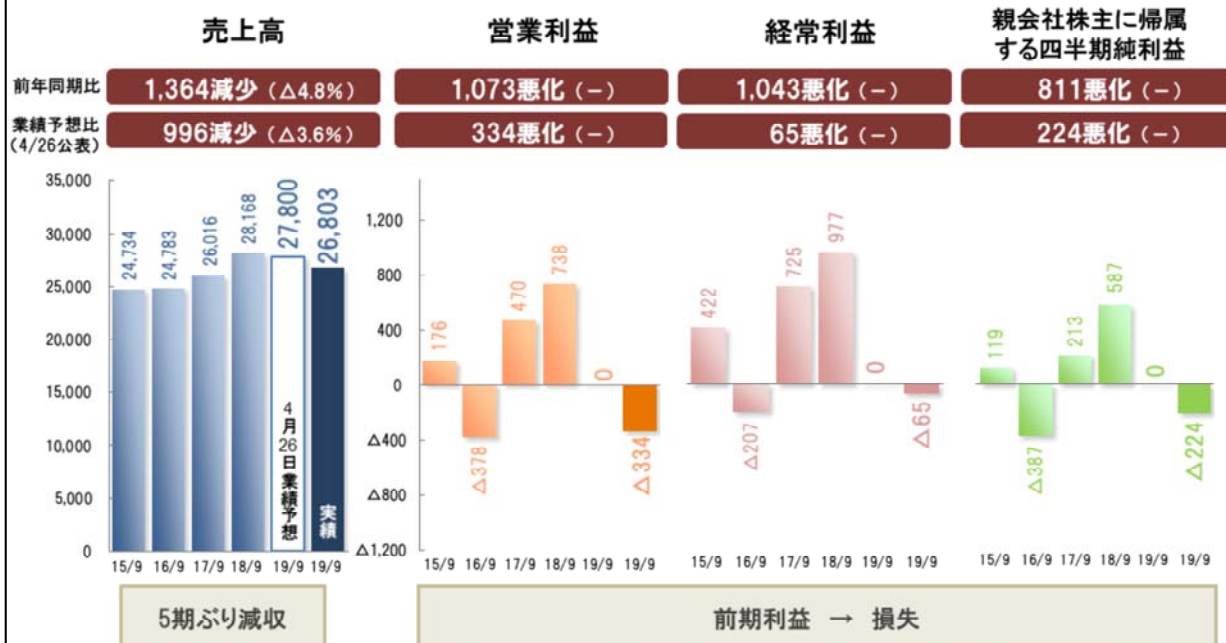
利益面でも、
営業損失 3 億円、
経常損失 6 千万円、
親会社株主に帰属する四半期純損失 2 億円となり、
減収となった結果、各利益は 3 期ぶりに減益となりました。

1-2) 売上高・利益の推移

ZENRIN
Maps to the Future

2020年3月期 第2四半期決算説明会

(金額単位:百万円)



※10/25公表の業績予想の修正値から大きな変更はございません。

© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved.

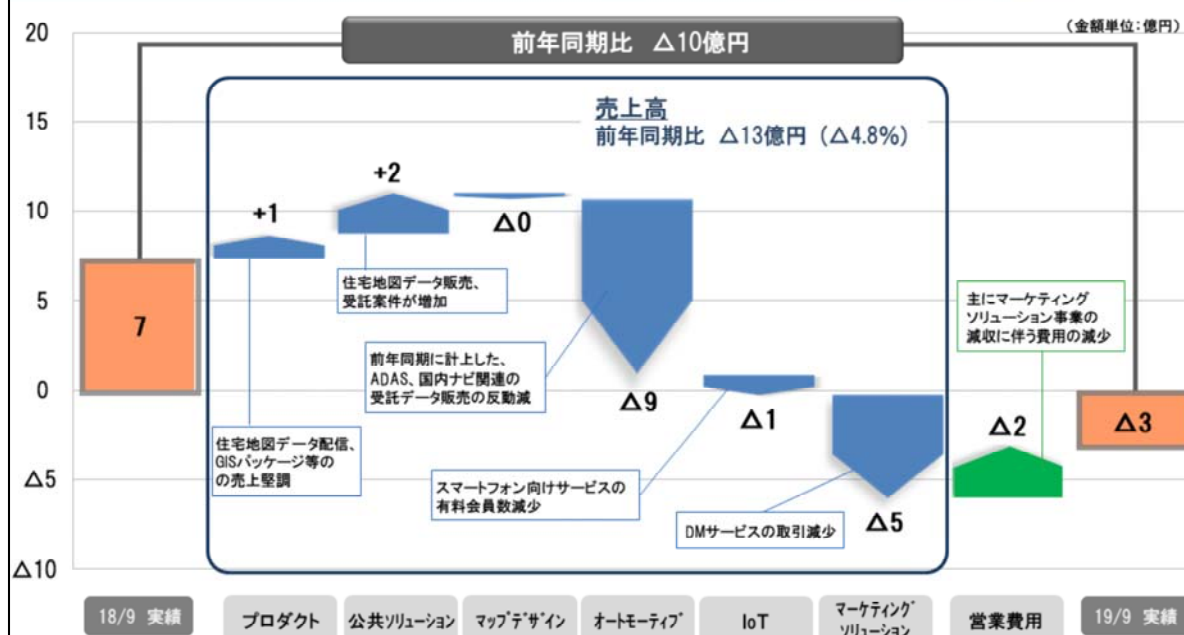
5

売上高・利益の過年度推移

1-3) 営業利益増減要因

2020年3月期 第2四半期決算説明会

ZENRIN
Maps to the Future



© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved.

6

営業利益の前年同期比較において、
事業別売上高と営業費用の増減を示しています。

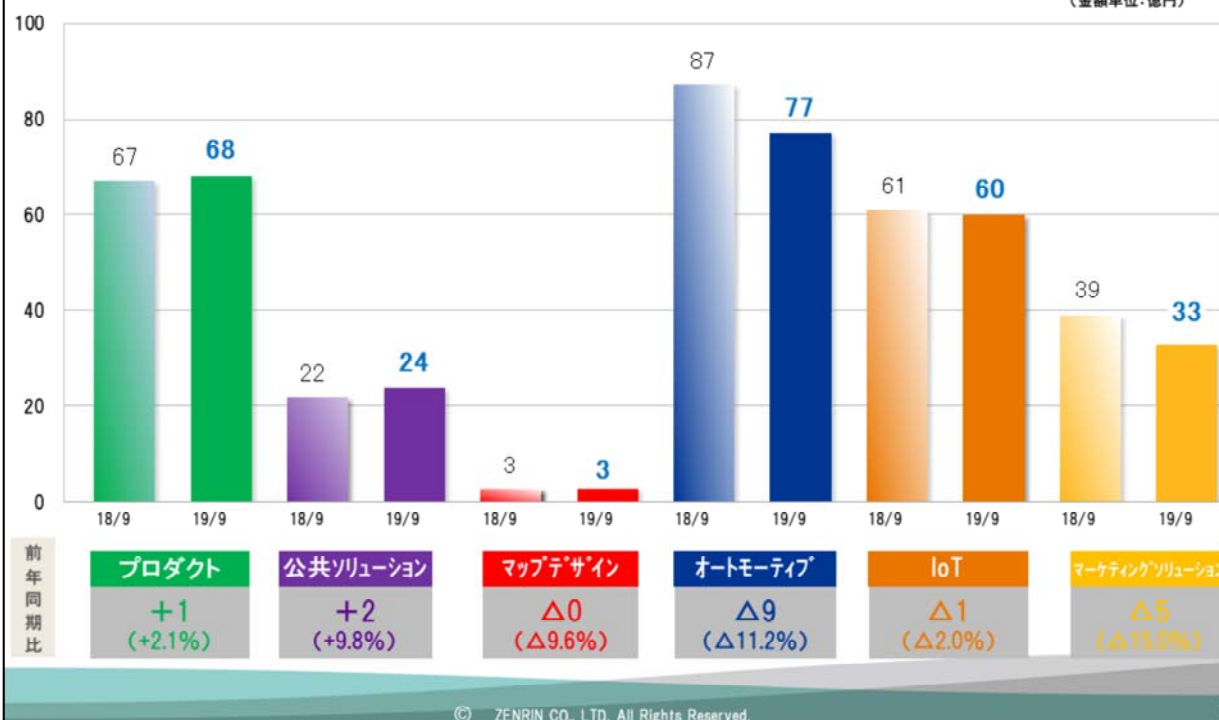
減収により、営業利益も 3 億円の損失となりました。

1-4) 中長期経営計画(ZGP25)で区分した事業別売上高

ZENRIN
Maps to the Future

2020年3月期 第2四半期決算説明会

(金額単位: 億円)



事業別売上高について

- ・企業向けに、住宅地図帳やパッケージ商品を提供する「プロダクト事業」は、住宅地図データ配信や、GISパッケージ等の売上が堅調に推移したことなどにより、1億円の増収となりました。
- ・中央省庁や自治体向けにビジネスを展開する「公共ソリューション事業」は、住宅地図データの販売増加や受託案件などにより、2億円の増収となりました。
- ・企画地図やオリジナルの地図柄商品等を提供する「マップデザイン事業」は、ほぼ前期並みで推移しました。
- ・「オートモーティブ事業」は、既存の国内カーナビ用データの販売は堅調ですが、前期発生した受託データ販売の反動減等により、9億円の減収となりました。
- ・「IoT事業」は、スマートフォン向けサービスの有料会員数の減少が続くものの、ソリューションビジネスの増加などで、1億円の減収にとどまりました。Googleとの契約に関して、上期業績への影響は軽微であります。
- ・中堅企業、個人事業主対象とする「マーケティングソリューション事業」は、ダイレクトメール等の取引の減少等により、5億円の減収となりました。

以上の結果、マーケティングソリューション事業の減収などにより、営業費用も減少いたしましたが、営業利益は10億円の減益となりました。

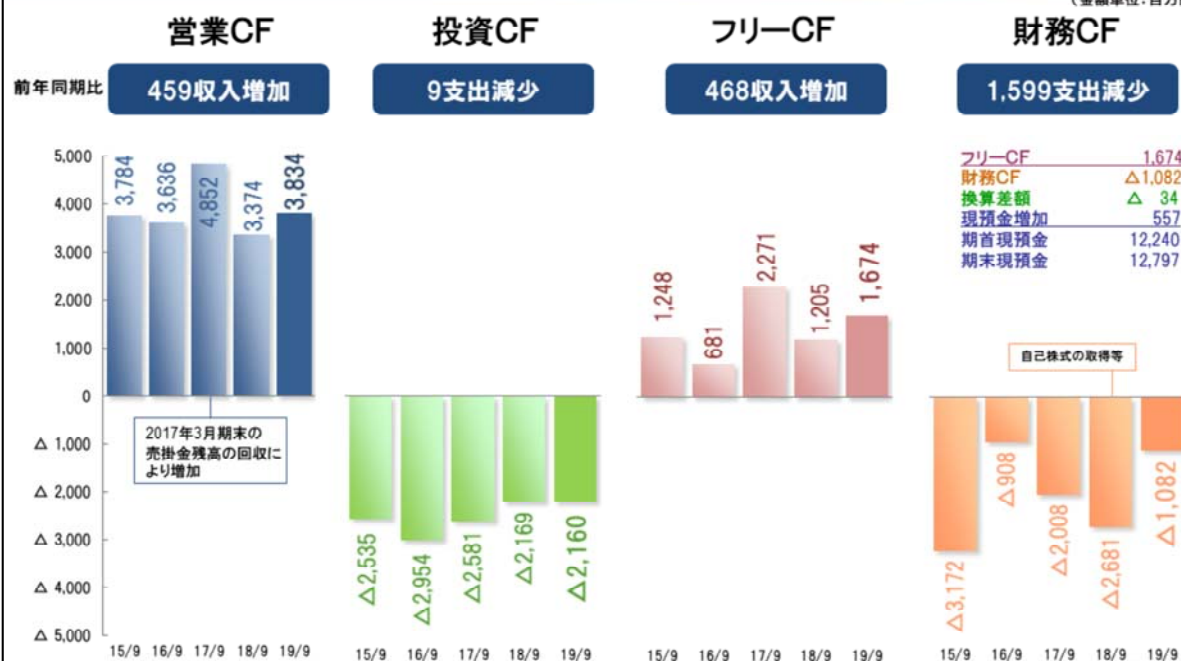
1-5) キャッシュ・フロー推移

ZENRIN

Maps to the Future

2020年3月期 第2四半期決算説明会

(金額単位:百万円)



© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved.

8

キャッシュ・フローの状況について

営業活動においては、法人税等の支払いや、たな卸資産の増加などがあったものの、売上債権の回収などにより、38億円の収入となりました。

投資活動として、有形及び無形固定資産の取得などで21億円を支出した結果、フリーキャッシュフローは、16億円となりました。

この資金と現預金から、配当金の支払い、リース債務の返済など財務活動で、10億円を支出しました。

2. 2020年3月期 通期業績予想

1) 通期業績予想
(4月26日公表値から変更なし)

2) 配当金

2020年3月期 通期業績予想

2-1) 通期業績予想

2020年3月期 通期業績予想について

現段階においては、概ね計画通りに進捗しており、当社グループの売上高及び利益が第4四半期に集中する傾向にある為、2019年4月26日に公表した通期業績予想から変更なし

前期比【増収増益(前期レベル)】(2019年4月26日公表)

- オートモーティブ事業(ADAS関連)の減収の影響はあるものの、プロダクト事業及び公共ソリューション事業のストック型ビジネスの伸張、IoT事業のソリューションビジネスの拡大
- 生産性向上・業務効率化等により、前期と同規模の利益を確保
(親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に発生した「のれんの減損損失」の反動により増加)

(金額単位:百万円)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 予想	前期比	増減率(%)
売上高	63,747	63,800	52	0.1
営業費用	57,923	57,900	△23	△0.0
営業利益	5,824	5,900	75	1.3
営業利益率	9.1%	9.2%	0.1pt	
経常利益	6,200	6,300	99	1.6
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,206	4,000	793	24.7

通期業績予想については、
第2四半期までの取り組みは、概ね計画通りに進捗していること、
また、当社グループの売上高及び利益が、
第4四半期に集中する傾向に変わりないことから、
4月26日に公表した業績予想を据え置き、
売上高638億円、営業利益59億円としています。

2-2) 配当金

基本方針

適正な内部留保を考慮しつつ、中長期経営計画における利益成長に基づいた利益還元を実施
連結株主資本配当率(DOE)3%以上を目標

2020年3月期配当金 (カッコ内は株式分割前基準) [※]	
中間	12円50銭 (18円75銭)
期末(予想)	12円50銭 (18円75銭)
年間(予想)	25円00銭 (37円50銭)

※2018年4月1日付けで、株式分割(1:1.5)を実施



配当金について

当社は安定的かつ継続的な配当の実施を基本方針としており、
中間配当は当初の予想どおり、1株当たり12円50銭とします。
また、期末配当も、同じく12円50銭を見込んでおり、
年間配当金は、前期比1円増配の、25円を予定しています。

3. 事業概況

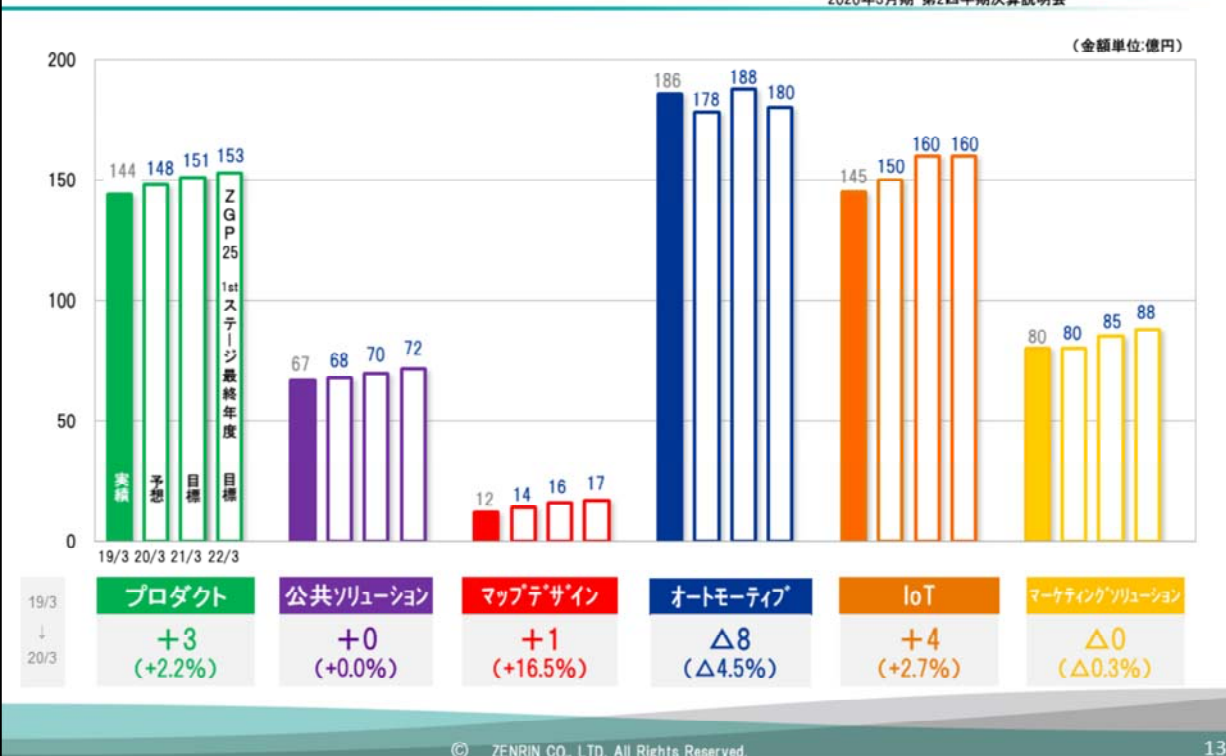
- 1) 事業別売上高（実績とZGP25 1stステージ目標数値）
- 2) ZGP25 事業戦略（重点施策と進捗）

中長期経営計画（ZGP25）における各事業の取り組み

3-1) 事業別売上高（実績とZGP25 1stステージ目標数値）

ZENRIN
Maps to the Future

2020年3月期 第2四半期決算説明会



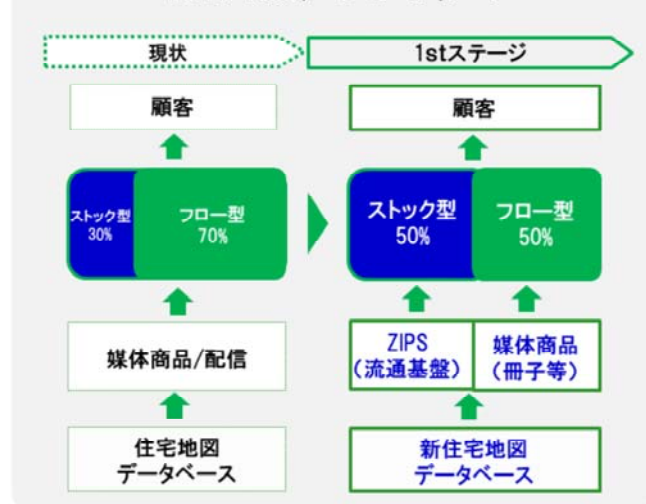
**ZGP25 1stステージでは、
事業を6つに区分し、3ヶ年の売上目標を掲げています。**

**ZGP25 1stステージでは、ビジネスモデルの変革をテーマに掲げ
フロー型からストック型のサービスへの転換に取り組んでいます。
2022年3月期のオートモーティブ事業、IoT事業の売上が鈍化するの
はストック型への移行による影響を反映しています。**

プロダクト事業

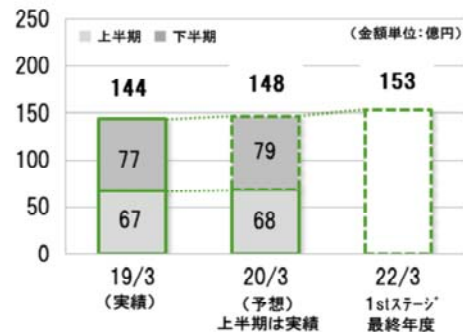
ライセンスビジネスの伸張によりストック型売上比率を50%に拡大

ZGP25 1stステージ ゴールイメージ



■第2四半期進捗
住宅地図データ配信、GISパッケージ等の
売上が堅調に推移

■Topic
「GISパッケージ不動産プレミアム」に
『過去地図機能』追加。不動産業務をより効率化



プロダクト事業では、
ライセンス商品によるストック型ビジネスへのシフトを目指しており、
若干の遅延はあるものの、GISパッケージが順調に推移しています。

業種では、「GISパッケージ不動産」が伸張しており、
今年9月には、「過去地図機能」を追加するなど、
機能追加によるアップセルも狙っていきます。

建設パッケージも「建設、設計、施工」という業務単位での
パッケージをリリースする予定です。

また、GISパッケージのエリア・価格戦略の見直しを行います。
現在は一律、1都道府県 1 IDで月額1万円ですが、
政令指定都市などの狭域エリアにおける
より細かなニーズに合わせたサービスを検討していきます。

業務に必要な様々な情報をワンストップで提供！ 中小事業者の業務の効率化をサポート

例えば不動産業者様の
物件調査業務は…



「GISパッケージ不動産」なら、業務に必要な
最新の地図データを24時間いつでも利用可能
クラウド型サービスで面倒なインストールや設定も不要！



(搭載コンテンツ)
住宅地図、ブルーマップ、
用途地図、地価公示、
地価調査、相続路線価、
固定資産税路線価

(機能)
検索、計測、描画、印刷、
衛星画像確認機能等

月額10,000円～

※税別、1都道府県1ID単位

【ZENRIN GISパッケージシリーズ】

※価格は税別、1都道府県1ID単位

GISパッケージ 不動産	プレミアム	情報収集から営業まで 業務全体をサポート 土地調査業務にかかる 様々な手間を解決	月額 20,000円～
	ライト	不動産賃貸仲介業務の接客時に 必要な情報・機能を提供	月額 2,980円～
GISパッケージ建設		建設業に携わる方々の 帳票作成をサポート	月額 10,000円～
GISパッケージ不動産鑑定士		不動産評価や コンサルティング業務の負担軽減	
GISパッケージ税理士		相続税申告業務にかかる 様々な手間を解決	

ストック型ビジネスで安定収益基盤に成長

GISパッケージ売上推移

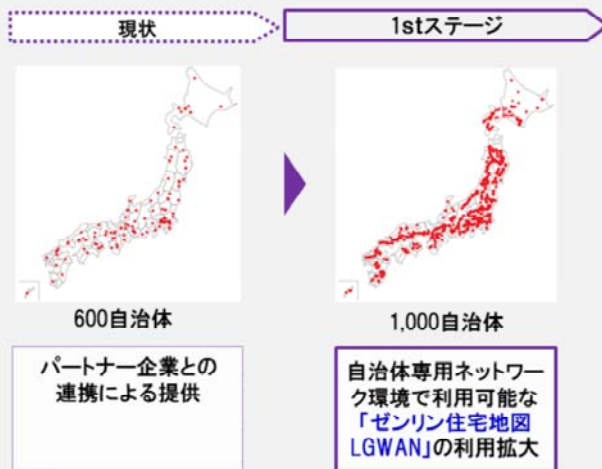


ZENRIN GISパッケージの紹介

公共ソリューション事業

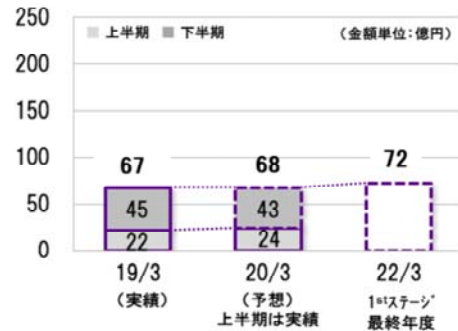
自治体の地図プラットフォームとして住宅地図利用が1,000自治体に拡大

ZGP25 1stステージ ゴールイメージ



■第2四半期進捗
住宅地図データの販売が堅調
引き続き、LGWANの利用拡大を推進

■Topic
「令和元年 防災功労者防災担当大臣表彰」を受賞
被災地の迅速な復旧・復興に貢献



公共ソリューション事業では、
自治体のプラットフォーム戦略が徐々に進んでいます。

特に防災関連において、
実証実験レベルの案件が、実際の納品となるケースも出てきました。
(例：福岡県朝倉市へ「気象災害予測支援システム」を納品)

2016年以降、約300自治体にハザードマップも納品しています。

浸水情報などを表現するには、住宅地図レベルのデータが必要です。
昨今の自然災害の影響を受け、被害想定が見直された場合、
防災関連での住宅地図のニーズは増加すると見込んでいます。

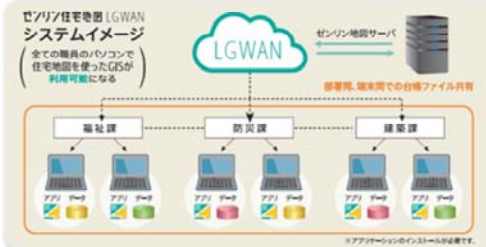
汎用的なフォーマット化によるコスト削減も実施しながら、
全自治体への浸透を目指します。

自治体業務における住宅地図の活用をより効果的に！ LGWANで豊富な機能を提供

「ゼンリン住宅地図 LGWAN」は、ゼンリンが長年蓄積した地方公共団体における地図提供ノウハウをもとに開発した LGWAN(行政機関専用のネットワーク)対応のクラウド型住宅地図サービス (2018年4月リリース)

【豊富な機能をパッケージとして、LGWANで提供】

コンテンツ : 住宅地図、道路地図、市街地図、広域地図
基本機能 : 検索、印刷、建物別記表記



人口規模3万未満の市町村
年額120,000円～

※税別、基本機能のみ

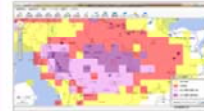
【ゼンリン住宅地図LGWAN 防災パック】

災害対応など、危機管理部門における業務に必要な機能をパック化

基本機能 + 台帳管理、shapefile取り込み、大判印刷、
エリア集計、土砂災害警戒判定メッシュ情報表示、UTMグリッド



【エリア集計】
指定した台帳の中の図形や、描画したポリゴンの中にある世帯数を自動でカウント



【土砂災害警戒判定メッシュ情報表示】
気象庁から配信される「土砂災害警戒判定メッシュ」情報を地図上に重畳。(5kmメッシュ)
※事前の条件設定により、メッシュに重なった時点でアラートやメールでお知らせ



【UTMグリッド表示】
UTMグリッド線(「UTM座標系」によるグリッド線)を地図上に重畳。災害対応時における、自衛隊との情報交換を効率化

自治体専用ネットワーク「LGWAN」に対応したサービスでも、
防災関連機能をパッケージした「防災パック」を販売しています。

現在は、自治体内部での閉じたサービスですが、
住民向けのアプリと連動させるサービス等を提案することも
検討しています。

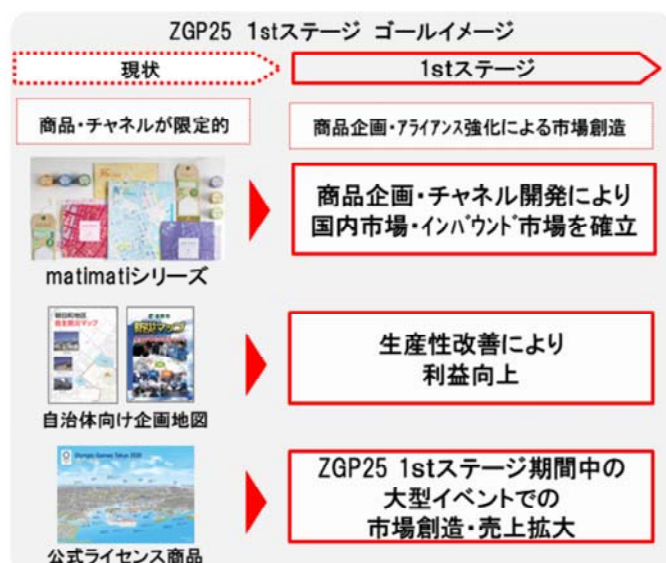
3-2) ZGP25 事業戦略（重点施策と進捗）

ZENRIN
Maps to the Future

2020年3月期 第2四半期決算説明会

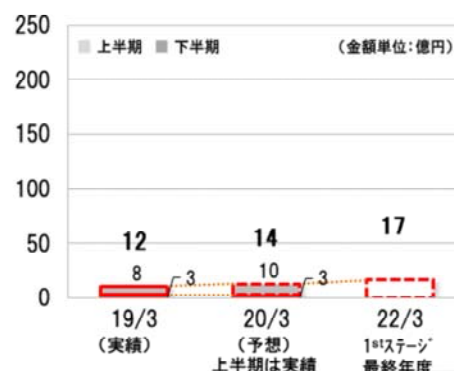
マップデザイン事業

具体的ターゲットと地図デザイン商品でコンシューマー市場の立ち上げ



■第2四半期進捗
ほぼ前期並みで推移

■Topic
大型イベントでの公式ライセンス商品販売



© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved.

18

マップデザイン事業は、当社にとってコンシューマー向けビジネスへのチャレンジです。

まだ小規模ではありますが、認知度を上げるプロモーションという位置づけもあり、徐々に浸透してきていると実感しています。

公式ライセンス商品など、

イベント系ビジネスも当事業に位置付けています。

最近の大型スポーツイベントでも公式ライセンス商品の販売を行い、10万個以上の商品を出荷しました。

当社の地図データを活用した商品開発と提供を今後も積極的に継続していきます。

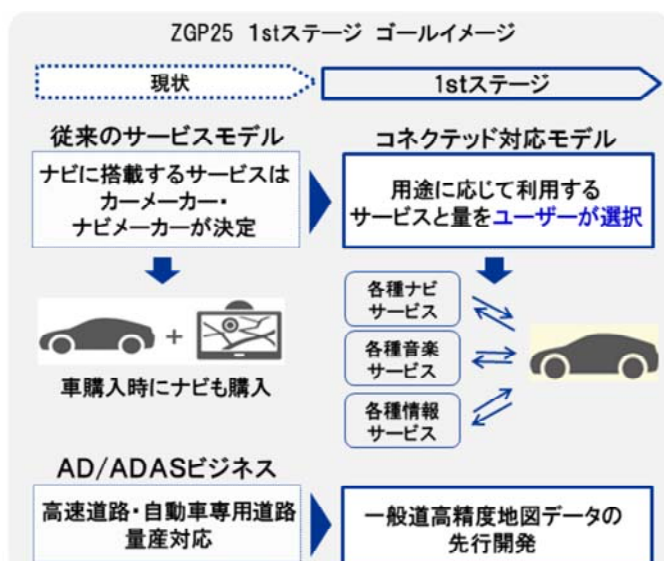
3-2) ZGP25 事業戦略（重点施策と進捗）

ZENRIN
Maps to the Future

2020年3月期 第2四半期決算説明会

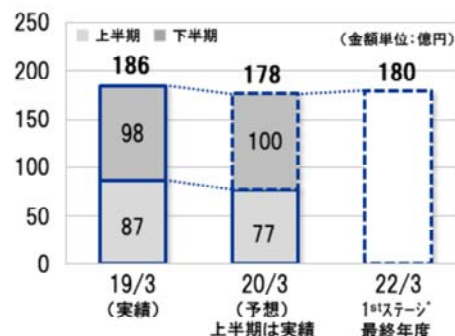
オートモーティブ事業

当社サービスモデルの採用による新たな安定収益基盤を創造



■第2四半期進捗
国内カーナビ向けデータ販売は堅調に推移

■Topic
3D高精度地図データが日産の「ProPILOT2.0」に採用



© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved.

19

オートモーティブ事業は、
現時点では、当社から自動車メーカーにデータを納品するという
フロー型ビジネスが大半ですが、今後のコネクテッドの進展に伴い、
ストック型への転換を図っていきます。

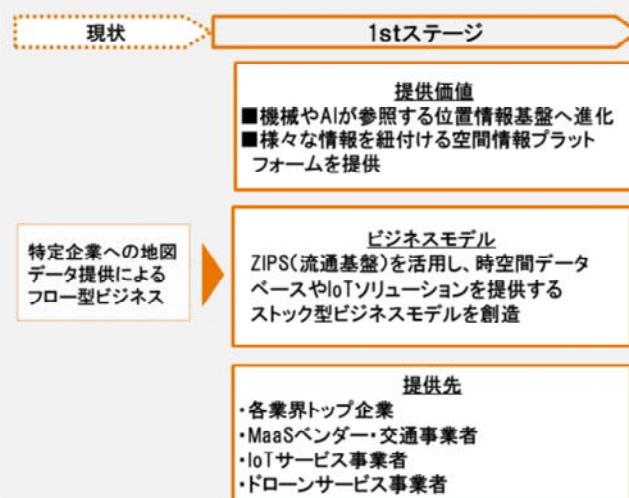
当社の顧客も、自動車メーカーだけでなく、一般消費者も
視野にいたしたサービスの開発が必須であると考えています。
クラウドナビの直接提供によるライセンスビジネスの構築など、
フロー型から、安定したストック型ビジネスを拡大していきます。

自動運転ビジネスは、現在、研究開発の受託と量産の谷間です。
普及時期などの予測は困難ですが、
自動運転（AD）、自動運転支援（ADAS）における
多様なニーズに対応していけるよう、今後も引き続き注力していきます。

IoT事業

位置情報が利用される新規プラットフォームでのシェア拡大

ZGP25 1stステージ ゴールイメージ



■第2四半期進捗

- ・スマホ向けサービスの有料会員数減少
- ・MaaSビジネス分野におけるタクシー配車向けソリューション強化

■Topic

- ・DiDiモビリティジャパンと当社グループが業務提携
- ・みんなのタクシーと当社グループが業務・資本提携



IoT事業では、
スマホ向けナビサービスなど、汎用性の高い商品は
利用用途特化型の商品と比較し、需要が減少している状態です。

様々なプラットフォーマーは、汎用的なサービスから
消費者の利用に特化したサービスの開発にシフトしています。

当社グループも多様な企業と協業していますが、
今後は、利用用途に対応した
各プラットフォーマーへの地図データ提供とソリューション提供が
重要だと考えています。

MaaSを実現する空間データベース「Mobility based Network」

地図上で「移動」を可視化し、空間情報として様々な事業者に提供することで、人々の「移動」をつなぐ



1つの空間上であらゆるモビリティを可視化できるゼンリンの「Mobility based Network」。自動車用ネットワーク、鉄道路線、駅構内通路、歩行者用ネットワークなど、移動に必要なあらゆるネットワークを組み込み、各ネットワークが交通結節点(各種の交通手段が結節する場所)で接続することにより、MaaSに最適な情報提供を実現。

Mobility Based Networkと3つのソリューション機能(地域情報のデジタル化ツール、最適ルートの提供、ビッグデータ分析)をMaaSオペレーターに提供し、あらたなモビリティサービスを創出。

MaaSへの取り組みは、
プラットフォームへの基盤＋ソリューション提供の一例です。

MaaSは移動に関する位置情報サービスですが、
当社は、移動に必要なネットワーク「Mobility based Network」の
全国整備を進めています。

MaaS実現のため、移動に必要なネットワークを交通結節点で
繋げることで、最適な情報を提供します。

更に、様々な企業とのアライアンスにより、
Mobility based Networkと、地域情報・最適ルート・ビッグデータの
分析といったソリューションを提供することで、
新たなサービスの提供が可能となります。

3次交通としてラストワンマイルを担う重要なモビリティであるタクシー業界との提携

IT化が進むタクシー業界において、利便性・快適性を向上させる次世代タクシー配車アプリに注目が集まる



【タクシー配車システム】



MaaSの事例として、タクシー業界との取り組みを紹介します。

移動における3次交通手段としてのタクシーの利便性・快適性向上のため

タクシー業界に次世代タクシー配車システムの導入が進んでいます。

当社は以前より、タクシー配車システム向けに、

住宅地図データを提供してきました。

今後は、ビッグデータと位置情報を連携させた需給予測や、

ドライバーが安全に走行できるルート案内、

ドライブレコーダーの画像やプローブを活用した地図メンテナンスの

効率化を目的に、タクシー業界との提携を強化していきます。

3-2) ZGP25 事業戦略（重点施策と進捗）

ZENRIN
Maps to the Future

2020年3月期 第2四半期決算説明会

マーケティングソリューション事業

マーケティング支援市場に新サービス投入

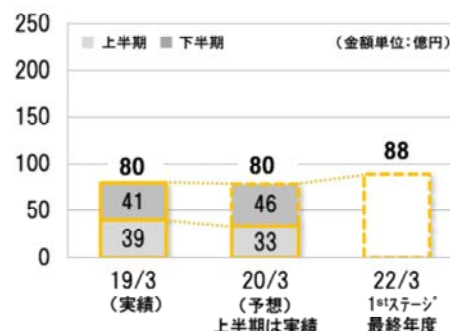
ZGP25 1stステージ ゴールイメージ

時空間情報とグループのノウハウ
(コンサルティング、デザイン、印刷など)のシナジー
により顧客に価値を提供



■第2四半期進捗 ダイレクトメールサービスの受注減少

■Topic
マーケティングソリューションの
パッケージサービスを展開予定



© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved.

23

マーケティングソリューション事業では、
ダイレクトメール発送代行ビジネスの市場縮小が続いており、
想定はしていたものの、それ以上に売上は減少しています。

各子会社による現状の受託取引だけでは、利益貢献や事業成長に
限界があることは想定内であり、対策として、各子会社の連携を
一層強化していきます。

これにより、商圈分析から、メディア作成、運用まで、
マーケティングソリューションのバリューチェーンを構築し、
主に小売店や中小規模企業を対象とした、
販促支援サービスを、パッケージ化して提供する予定です。

3-2) ZGP25 事業戦略（重点施策と進捗）

ZENRIN
Maps to the Future

2020年3月期 第2四半期決算説明会

小売り・サービス業における販促業務の各種課題を解決し、わかりやすく効果的なサービスを提供

全国140万件ある小売り・サービス業向けに、地図データとマーケティングコンテンツを活用した販促パッケージサービス

【販促支援パッケージ(イメージ)】



販促支援パッケージのイメージ

ZENRIN

Maps to the Future

株式会社ゼンリン <https://www.zenrin.co.jp>
コーポレート本部 経営管理・IR部
IR問い合わせMail: zenrin-ir@zenrin.co.jp